

第92号 長野地区会ニュース

令和4年 10月31日
発行 国臨協長野地区会
発行責任者 平原 博美
編集責任者 中戸川 浩平



contents

- 会長挨拶
- 「国立病院機構臨床検査技師協会関信支部表彰を受賞して」
沼田 ますみ
- 「第50回国臨協関信支部記念学会に参加して」
内藤 真由美
宮山 和樹
- 第50 回国臨協関信支部記念学会『地区会コーナー』
- 小さい秋みつけた

会長挨拶

長野地区会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。また日頃より当地区会活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。7月の長野地区会総会書面表決にてご承認いただき、令和4年度の活動が始まりました。直後に第50回国臨協関信支部学会における地区会コーナー用のスライド作成の締め切りが迫っており、急遽Webにて理事会開催し慌てて取り掛かかる形となりました。今回のテーマは「我が地区会の〇〇記念」でしたが、こじつけにこじつけて何とか短期間で仕上げました。皆様もご覧になられたと思いますが、スライドは学会サイトにて展示され、各地区会からの力作が並んでいました。惜しくも賞に輝くことはできませんでしたが、また次年度に向け皆様も企画を膨らませていてください。

さて、酷暑の夏が過ぎ実りの秋となりました。すでに冬？な気温の日もありますが、少しずつコロナ感染者数は減少し、制限の緩和もさらに加速しております。とはいえ医療従事者としてはまだ何となく自粛ムードですので、本誌面を情報共有の場とさせていただきます。

行動制限の無い夏は各地で伝統行事が再開し、人と人との絆を大切にしたいという想いがあふれる報道が多くありました。経済・観光の復活に乗り出しており、少しずつ変化しながら“日常”を取り戻すための模索が続いています。長野地区会の歩みもこの先を見据え執行部一同奮闘してまいりますので、皆様のご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

東長野病院 平原 博美



「国立病院機構臨床検査技師協会関信支部表彰を受賞して」

小諸高原病院 沼田 ますみ

この度、国臨協関信支部表彰を賜りました。推薦して頂いた長野地区会会長はじめ会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

長野地区会へは令和2年、小諸高原病院に赴任して初の入会となり今年で3年目を迎えます。赴任早々に会長を仰せつかり、自分に会長が務まるのかという思いと新型コロナウイルス感染拡大の中不安なスタートとなりました。しかしながら各施設の理事をはじめ技師長、会員皆様のご協力と心強い支援を得ながら会の運営を進められたこともあり、例年に倣うべく、年2回の地区会ニュースおよび文化活動に代わるニュースの臨時号発行をはじめ、試行錯誤ではありましたがこびナビを用いた自主研修とアンケート調査、DVDによる専門職の講演など行う事が出来ました。本当にどうもありがとうございました。唯一悔いが残るといえばやはり集合型の会が出来なかったことで、新しい仲間との出会いの場や、以前に一緒に働いた仲間との近況を語り合える場を作れなかったことです。集合型の会がいかに大切であるかを改めて痛感しました。

さて、会員の皆様にはこれまで関信支部学会等を通してどこかでお会いしているかと思いますが、中には支部ニュースを通してでしか私をご存じない方もいると思います自己紹介少々話をします。私は、昭和59年国立東京第二病院（現、東京医療センター）6月に採用になり17年5か月在籍しました。それ以降は国立国際医療研究センター8年4か月、がんセンター中央病院3年、東京医療センター4年、下総精神医療センター3年、そして今に至ります。現在まで5施設、38年間勤務しました。そのうちの32年間、検査技師人生の殆どは病理検査室で組織標本作りと細胞診、病理解剖に明け暮れました。思い起こすと私が19歳の時に父親が癌で亡くなり、がんにはとても興味があった私にとって、病理に配属されたことは幸運でした。病理は希望したわけではなく、しがみつくつもりも全くありませんでしたが、宿命なのか病理から離れることはありませんでした。同じ部門を長くやっていると時代の移り変わりで専門性が求められる時代とオールマイティーさが求められる時代の波が交互にやってきて、病理しかできない専門バカと称されることもあれば、専門性が評価されることもありました。そのような中でルーチンアドバイザー制度が始まり、私は初代病理アドバイザーであった中野嘉子主任の後任として2代目を務めました。

細胞診研修会での講師等も含め貴重な経験をさせていただきました。家庭においては今年結婚30周年、記念日としては真珠婚式にあたります。3人の子供にも恵まれました。若いころは男性主体の職場下で、女性は結婚したら辞める、子育てしながらの仕事は迷惑千万と言われる中で、職場の先輩であった現、信州上田医療センターの齊藤美穂子氏が先駆けて結婚、育児をしながら頑張っている姿を見て、私も女性が結婚し子供ができて仕事が続けられるよう道を開こうと決心しました。どこまでやれたのかはわかりませんが、今日の女性技師の活躍を見ると少しは仕事がしやすくなったのかなとうれしく思います。これからも結婚や子育てのみならず介護問題なども含め、本当の意味での男女の働き方改革が進んでいくことを願います。今後はタスク・シフト/シェアの取り組みを通し、今まで以上に検査技師の活躍の場も増えてくることと思います。定年まであと半年になりましたが、誰かのお手本になれるようあと少し頑張りたいと思います。最後になりますが、国臨協関信支部長野地区会のご発展と役員ならびに会員皆様のご活躍をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。



「第50回国臨協関信支部記念学会に参加して」
NHO東長野病院 内藤 真由美



9月3日に行われた第50回国臨協関信支部記念学会で、私としては初めて座長を務めさせていただきました。

今年の関信学会は初めてサイバー空間を活用した「イベントインV-CUBE社」を用いてのWeb開催となり、テーマごとの部屋に分かれての構成でした。私は「生理機能（2）」の座長で5演題を担当させていただきましたが、初めての座長の感想は「とても大変」でした。そして、一般参加の時にはわからなかった気づきが沢山ありとても勉強になりました。ただ、文字で勉強になった！と言っても中身が無いので少し私の感じた事を書きたいと思います。

私の中の座長イメージは、いろんな部門で検査をして、経験豊富で、話が上手くて、今風でいえば陽キャの方がやるものと思っていました。そんな中、人前で話すのが大の苦手な私が座長をする日がくるなんて・・・。最初にお話を頂いたときは緊張で具合が悪くなる思いでした。しかし、学会が近づくに連れて当院の技師長・副技師長が親身に相談に乗ってくれ、まさに！学会サブタイトルの～過去から学び未来につなぐ～を感じました。私自身も発表者に失礼が無いように、当日に向け発表者と同じくらい抄録を読み込み、内容を理解し、演題名、発表者名を入念に確認しました。数日前から関信支部の皆様が入念なリハーサルを重ねたにもかかわらず、学会当日の2演題目にスライドが動かないというトラブルに見舞われてしまい、発表者も私も余裕が持てなくなってしまった事は反省点になりました。ただ、時間通りにセッションは終わらせることができたのでホッとした気持ちです。参集型に比べWeb型は各施設の通信状況が一定ではないことや、顔を合わせないためどうしても全体の雰囲気を読み取りづらい面があることを改めて実感しました。

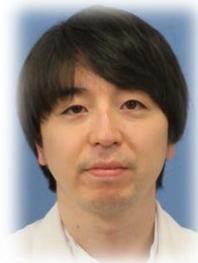
最後になりますが、今回の学会で初めての座長として

- ・しっかり準備をして挑む
- ・時間を厳守し、限られた時間内で発表が円滑に進むよう配慮する
- ・予期しないイベントが起こる事を覚悟しておく
- ・精神的にゆとりをもって挑む

などの事を経験し学ばせていただきました。

私自身とても勉強になりプラスになる経験ができた学会でした。

「第50回国臨協関信支部学会に参加して」
信州上田医療センター 宮山 和樹



令和4年9月3日(土)、第50回国臨協関信支部記念学会がライブ配信にて開催されました。学会テーマを「未来への跳躍～過去から学び未来へつなぐ～」と題した本学会は、第50回の記念学会ということもあり、当院でも一演題はエントリーしようという中で、病理検査室として一例発表いたしました。演題は「当院の内部監査を利用した業務改善の現状と課題～病理検査室での実例～」とし、当院における内部監査の方法や、内部監査による効果や課題、また内部監査を契機とした病理検査室での業務改善例について発表いたしました。接続等、事前のリハーサルでは少々トラブルがありましたが、学会当日は理事の皆様をはじめとしたサポートのおかげもあり、無事発表を終えることができました。また、学会ではベスト口演賞をいただき大変光栄に思います。私自身内部監査は当院で初めて経験し、慣れない中での実施でしたが、内部監査を効果的に活用し業務改善へとつなげるために今後も意識して取り組んでいきたいと思います。今回の学会では、新たにEventIn「V-CUBE」を利用して行われました。3会場が行き来可能となり、質疑応答も直接音声によってリアルタイムに行われたため、Web配信でありながら、従来の集合型の学会を感じさせる大変有意義な学会でした。Webでの学会にもすっかり慣れ、集合型の学会はどんなものであったか忘れつつありますが、近い将来従来通りの集合型の学会が開催され、会員の皆様と直接会い交流ができる日を心待ちにしております。最後に、本学会の開催にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

内部監査を実施して

内部監査による効果	
[業務改善]や[問題点の気づき]のきっかけ	部門内での 自発的な業務の見直し がなかなかできていない…… ↓ 内部監査での客観的な指摘が、部門内で 業務を見直すきっかけ に
内部監査での課題	
不適合の原因追及	なぜなぜ分析を用いた不適合の原因追及に 苦戦
監査員としての力量	監査員として指摘する内容や情報の入手に関して 力量不足 を感じた。

第50 回国臨協関信支部記念学会の 『地区会コーナー』にスライドを掲載しました。



作成にご協力いただき
本当にありがとうございました！！！！



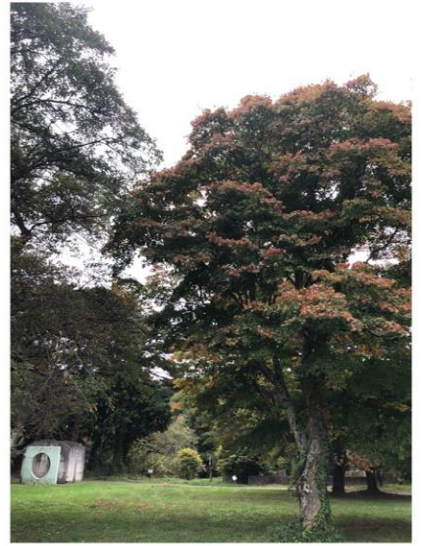
小さい秋みつけた



<https://kaigoworker.jp/column/440/>

秋の間違い探しのコーナー！！ ではなく...

朝夕の冷え込みが厳しくなり、もうすでに冬を感じることもある中、身の回りで見つけた秋を感じる写真を紹介させていただきます。



第8波の話も聞こえてくる中、集合型の研修会や交流会が行うことができず、中々皆様にお会いすることができません。

身の回りの季節の移り変わりを楽しみながら、地区会の皆様にお会いできる日を心待ちにしております。

最後になりましたが、執筆いただいた皆様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

